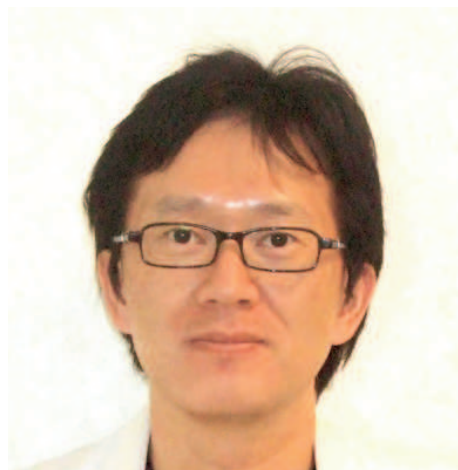


# すい臓がんの早期発見を目指した医療を展開



IMSグループ  
琴似ロイヤル病院  
院長  
丹野誠志

当病院では昨年、増築した新病棟3階に消化器病センターを開設しました。患者さんの負担を少なくし、かつ先進的な治療が提供できる最新の内視鏡設備なども整備し、急性疾患からがんまで、すべての消化器疾患に幅広く対応する体制を整えています。

消化器内科では、特にすい臓がんの早期発見・治療に力を入れています。すい臓がん術後の生存率が低い理由の一つに、早期診断が困難で発見時には大部分が進行がんであるということが挙げられます。しかし、他部位のがん

同様、内視鏡機器等の進歩によりがんの初期像が明らかになれば、高い精度ですい臓がんの小病変を診断できると考えられます。

私は、すい臓・胆道分野の専門医として、膵嚢胞（すいのうほう）を最も有望なすい臓がんの高危険群としてとらえ、膵嚢胞との関連性に着目することで、すい臓がんを早期に発見できると考えています。

すい臓にみられる嚢胞の多くは膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）と呼ばれるもので、近年、このIPMNとは離れた部位ですい臓がんが高率に合併することが分かってきています。高発がん状態にあると考えられるIPMNの患者さんに対して、専門医が定期検査することで、初期段階ですい臓がんを発見できるのではないかと期待しています。